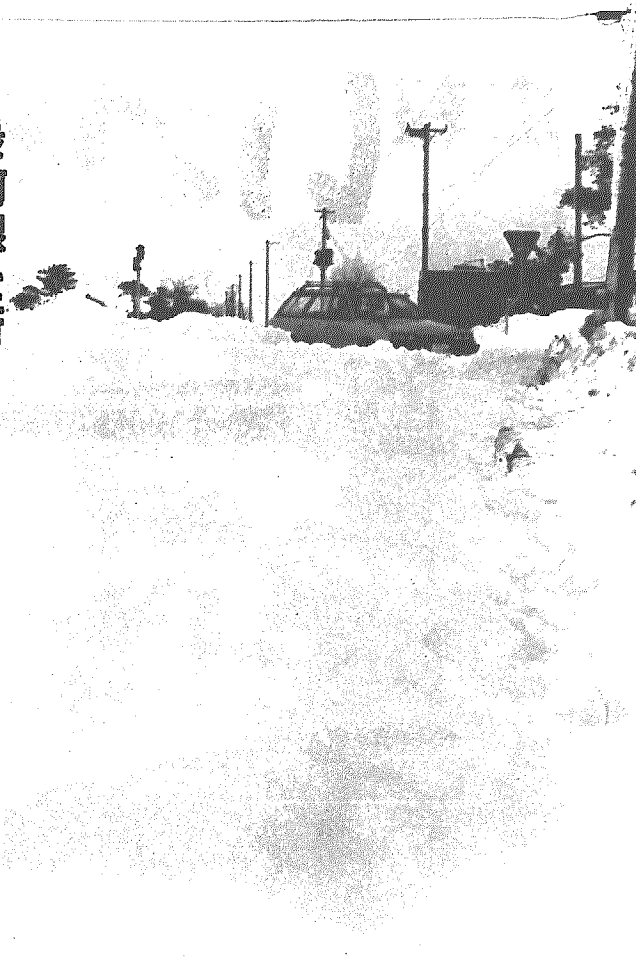


最前線に行く



▲パトロール車を回し、幹線道の道路状態を把握する。



# 雪国・新潟

## 言うけれど……

除雪隊随行列ポ

年末を襲った大雪に、上越地方や頸城地方の市町村では災害救助法の適用を受けるなど、二年続きの豪雪となった今年。雪国・新潟の中でも海岸部に位置し比較的雪の少ない本村も、今年ばかりは、容赦なく吹きつける北風と雪・雪の毎日。

1月15日(早朝)



▲久しぶりの晴れ間に県道白根・間瀬線の和納踏切を一斉排雪——幅員10メートルの車道は2メートルを超す雪の壁で5メートルほどに縮まっている。



▲午前2時30分——出動前のミーティングが行われ、村の担当する幹線道の除雪計画の打ち合わせをする。



▲いざ、出動——村の除雪車は5台。このうち常時稼働しているのがグレーダーなど4台。1台二人の搭乗員で除雪作業が進められる。

完全防備の服装さえも通す厳しい寒さに加え、年末からの休み知らずの雪に最深積雪は約二メートルと短期間にしては、記録的な豪雪となった。そのため、ドカ雪をもたらした強い寒気が抜け、久しぶりの晴れ間の日には岩室村では珍しく、こここで屋根の雪下ろしが行われた。  
一方、生活の足となる道路では、村民の生活を守るため、必死の除雪作業が連日続けられる。しかし、除排雪のあとからまた降り積もる「雪」に人も車もそして村の除雪費もダウン寸前。早く暖かな日さしがほしい……と願うのは除雪隊員だけではないでしょう。  
厳しい寒さとなった先月十五日(成人の日)の早朝、カメラで役場建設課内の除雪隊を追ってみた。



▲午前3時、暖気運転の消んだ除雪車に燃料を補充して、いよいよ出動。このときの外気温は、マイナス3.8度だった。



▲地吹雪、車立ち往生——今冬二度目の寒波に襲われ、各地で吹きだまりに立ち往生する車が相次ぐ。雪に埋った車は除雪のさまたげになることから、引き出すのも除雪隊の仕事の一つになってしまう。



▲連日の雪のため、どこの道路も飽和状態。圧雪も20~15センチと厚くなって凹凸だらけ。圧雪排除後の後仕末はやはり人力が頼りになる。



▲カーブミラー無残ノ——2メートルを超える雪の側壁にカーブミラーもご覧のとおりに……。

村道除雪のお問い合わせは

役場建設課内の除雪本部 ☎4111・内線172) へどうぞ。